

いよいよ梅雨明け宣言も出され、夏本番を迎えようとしています。保護者、地域の皆様におかれましては、御健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、4月にスタートをした今年度はここまで感染防止対策を取りながら、予定された教育活動を滞りなく行うことができました。これも保護者や地域の皆様の御理解、御協力の賜だと感謝申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休校があったため、お盆の時期に5日間の短い夏休みでしたが、今年度は2年ぶりに通常の夏休みが取れるとあって、子どもたちのわくわくした気持ちが伝わってきます。37日間の夏休みの中で、夏にしかできないことや、家庭でしかできないことをたくさん経験して、夏休み明けには一段と成長した姿でまた会えることを楽しみにしています。

☆学校花壇も衣替え☆

先日全校児童で、学校花壇の花植活動を行いました。春先には花壇一面をたくさんの花で彩ってくれたパンジーを抜いて、マリーゴールドや、サルビアの苗を植えました。児童一人一人が一生懸命作業したおかげで短時間で終わることができました。学校も一気に夏の装いになりました。今年もまた、たくさんの花を咲かせてくれることを楽しみにしています。



花壇活動の様子

☆願い事は叶うかな☆

今年も那須高原小学校恒例の七夕の飾り付けを行いました。地域の方から竹を提供してもらったり、図書ボランティアの方に飾り付けの手伝いをしてもらったりして、華やかな飾り付けになりました。子どもたちもそれぞれの願い事を書いた短冊を下げました。新型コロナウイルス終息の事、家族の健康の事、勉強のこと、将来の職業の事など様々な願い事が書かれていました。できれば、どの願い事も叶えてあげたいと感じたのは私ばかりでは無いと思います。



☆奉仕作業お世話になりました☆

5月8日と6月23日の奉仕作業には、多くの保護者や地域の方に参加していただき、雑草取りや、樹木の剪定、下草の刈払いなど行いました短時間でしたが、皆さんの手際の良さと集中力にはいつも驚いてしまいます。より素晴らしい環境で学習活動ができる事を子どもたちと一緒に感謝したいと思います。



奉仕作業の様子

☆御家庭でも自立・自律の実践を☆

那須高原小学校では、「自ら考え」「判断し」「決定して」「行動できる」児童の育成を目指して、自立・自律を育てる活動を行っています。特に縦割班活動では、高学年を中心に話し合いを行い、自分たちで考えて行動する機会を設けています。今後は、様々な行事にも子どもたちの考えを取り入れ、実践していきたいと考えています。御家庭でもお手伝いなど、何か自分で考えて取り組めることを話し合い、実践していただきたいと思います。御協力よろしく申し上げます。

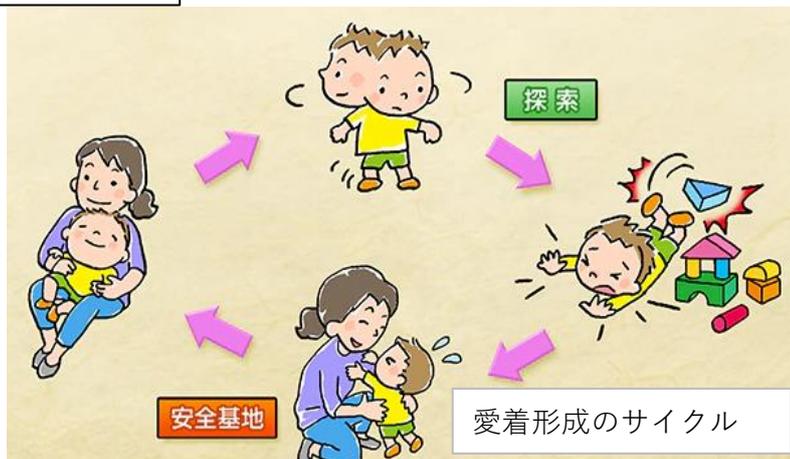
“子供の脳”を守れ ～脳科学から考える子育て～

体罰や暴言、夫婦げんかを見せるなどの不適切な養育（＝マルトリートメント）が、子供の脳に深刻なダメージを与える可能性が脳科学の画像診断で明らかになってきました。問題行動や親子関係の悪化にもつながることも分かり、問題の深刻さが見えてきました。

マルトリートメントを受けている多くの子供たちに共通の症状として「愛着障害」が見られます。

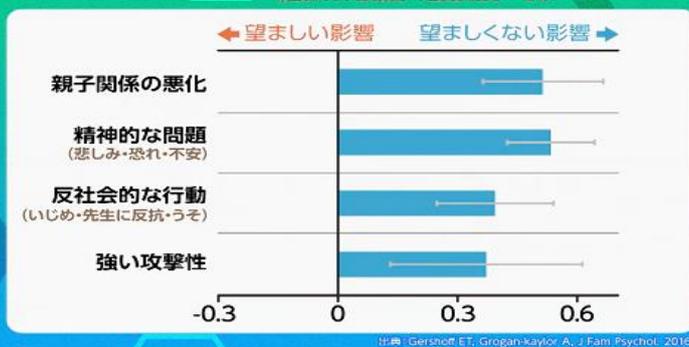
愛着障害とは養育者である親との心理的な絆（＝愛着）が築けていない状態のときに出てくる症状。正常な愛着形成ができた子供は外の世界に探索行動に出たとき、不安があるとすぐに「安全基地」である親の元に戻って不安をおさめ、再び外の世界に探索に出るといったサイクルを繰り返しながら行動範囲を広げ、成長していきます。

しかし愛着形成ができていないと親が安全基地となり得ないため、子供は不安を収めることができず、精神的に不安定な状態になってしまうのです。暴れる、問題行動を繰り返す、不安や感情をコントロールすることが苦手になるといった特徴があります。



しかし愛着形成ができていないと親が安全基地となり得ないため、子供は不安を収めることができず、精神的に不安定な状態になってしまうのです。暴れる、問題行動を繰り返す、不安や感情をコントロールすることが苦手になるといった特徴があります。

子供に与えるマイナスの影響



マルトリートメントが子供に与えるマイナスの影響は、愛着障害だけではなく、世界のさまざまな地域で行われた111の調査、16万人分のデータから子供に与える影響を調べた研究では、「親子関係の悪化」「精神的な問題（悲しみ・恐れ・不安）」「反社会的な行動（いじめ・先生に反抗・うそ）」「強い攻撃性」の4つの項目すべてで望ましくない影響が出ることが分かりました。

子供の脳を回復させる道筋

①心を込めた“だっこ”が大事

治療プログラムでは、“子供が安心を感じられる体験を重ねること”を大事にしています。心地よい体験をすることが、脳の機能回復を助けると考えられるためです。「抱きしめられるときの安心感が子供の脳と心と体の発達を活性化するのだと思います。愛されている実感を記憶し、心身の機能を上げるためには心を込めただっこが大事だと考えています。」

②同調する動きが脳の修復を助ける

もう一つ、脳の神経ネットワークの再生を促進するのに有効だと考え、治療に積極的に取り入れてきたのが、キャッチボールのような互いに呼吸を合わせる運動です。ボール投げを使った治療「傷ついた子供たちの治療で最初にするのはボールを使った遊びです。それまで恐怖に体が固まっていたとしてもボールで遊び始めると、自分が投げたボールを誰かが受け取ってくれることに喜びを感じ、リラックスして安心を感じるようになります」。また、「子供はこちらが“投げよ”と言うと投げようとする意図を読みます。意図に集中してどの瞬間でボールが来るかということを読みながらキャッチする。その時キャッチするという動因を活性化しなければならない。投げてる、それをキャッチするというやり取りの中で脳が活性化されていきます。」

責任を親だけに押しつけない

「そもそも人間は、狩猟生活を送っていた太古の時代から共同して子供を育ててきました。しかし核家族化が進んでいる今、“一人で完璧な子育てをしなければいけない”という迷信が広がっています。マルトリートメントを繰り返す親は頼れる人がおらず、相当ストレスをためていることが多い。早い時期にそのストレスに周りが気づき、サポートすることがとても重要です。」

社会全体で子供、そして子育てする親たちを支える。私たち一人一人にこうした意識が広がっていくことが、子供たちをマルトリートメントから守り、健やかに成長させるために必要なことなのです。